

学生とともにつくる受刑者・在院者芸術作品展（仮称）

—企画段階からの学生参画による「共創型広報」の取組—

1 実施日・実施場所

本年3月20日(金)-21日(土)
札幌駅地下歩行空間

2 概要

北海道矯正管区では、例年3月頃、札幌駅地下歩行空間において、受刑者や在院者が制作した芸術作品を紹介する展示を開催しています。

本展示は、作品や制作に込められた思い、展示パネル等を通じて、矯正行政への理解を深めていただくことを目的としています。

3 学生参画の趣旨

今回の展示では、来場者や若者の視点に立った広報を検討するため、大学生ボランティアに企画段階から参画していただいている。大学生には企画立案のメンバーとしてアイデアを出してもらい、その内容を北海道矯正管区が整理・検討したうえで、採用の可否や具体的な実施方法を決定します。

4 実施を検討している学生発案の内容

(1) フォトスポットの設置

展示を「見るだけ」で終わらせらず、来場の記憶として残る体験とするため、写真撮影が可能なフォトスポットを設置予定です。SNSとの連動も視野に入れています。

(2) プロモーションビデオの制作

作品や制作の背景、展示の趣旨を伝える短編映像を制作し、会場内での上映やオンラインでの発信を想定しています。

(3) 職業指導・刑務作業体験

職業指導や刑務作業の一端を、簡易的な体験として紹介し矯正行政への理解を深める取組を検討しています。

5 参加している大学生について

北海道科学大学から3名、札幌国際大学から4名が参加

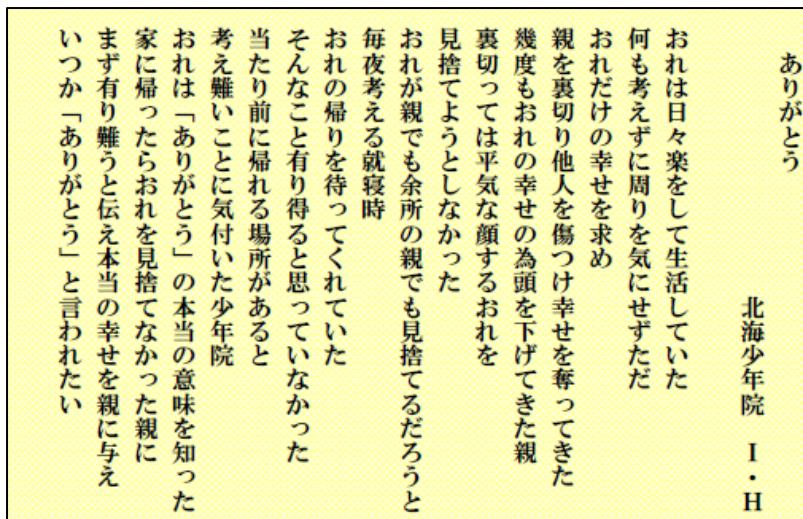
学生ボランティアに関する取材については、大学側は了承済み、学生本人の意向により対応可



昨年度の様子



自由画（成人）第一席

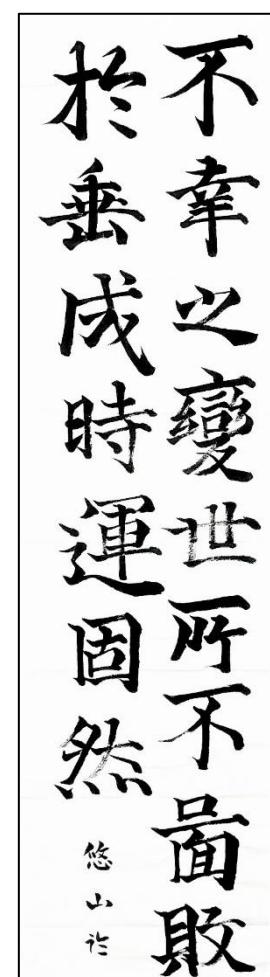


書道（成人）第一席

ありがとう
北海少年院 I・H

おれは日々樂をして生活していた
何も考えずに周りを気にせずただ
おれだけの幸せを求める
親を裏切り他人を傷つけ幸せを奪つてきた
幾度もおれの幸せの為頭を下げてきた親
裏切っては平気な顔するおれを見捨てようとした
おれが親でも余所の親でも見捨てるだろうと
毎夜考える就寝時
おれの帰りを待つてくれていた
そんなこと有り得ると思つていなかつた
当たり前に帰れる場所があると
考え難いことに気付いた少年院
おれは「ありがとうございます」の本当の意味を知つた
家に帰つたらおれを見捨てなかつた親に
まず有り難うと伝え本当の幸せを親に与え
いつか「ありがとうございます」と言われたい

詩（少年）第一席



書道（成人）第一席